

いま 現代の幼児教育を考へる

堀合 文子

日、一日と社会は動いています。世界は動いています。その中に私共は生活していて、子ども達も生まれ育っています。

この事は誰でもが感じ又知っていますが、そのあまりにも激しい移り変わりで麻痺している所があるようです。

特に教育においては、教育と言う一つの事実としてばかり捕えて、社会の情勢と教育との関連をつけられる人は中々いません。

教育、教育とその事のみ考えて日々過ごしている私共ですが、あまり教育の中味にばかり振りまわされて子どもを忘れてはいないでしょうか。勿論ニュースとして情報として知識としては過分に持たれているのは教育者でしょうが、それが教育の上に、子ども達の上に反映しているでしょうか。自分もその一人に入るとは思うが、現場になると違います。違わなければならないので特に幼児の場合は違うのです。違うのです。幼児は活発な活動、そして常に発育しているだけに充分に世の中の情勢を私共以上にしょって生活して生きています。

こんな幼児を教育している私共保育者はこれでよいのでしょうか。明治時代と同じ事をして平気でいたり、子どもを忘れた保育者満足の教育しても気がつかず平気でいたりしているのが今の幼児教育の現場ではないでしょうか。時折、私がおかしいかしらと考えてみる事もあります。幼児が目の前で生活し、共に生活するとやっぱり違っている子どもたちです。違ってあたりまえ、それを気付いてあたりまえでしょう。そしてそれなのに日本

の幼児教育はまだ、まだ形式教育と言おうか、教育している形がそこにあらわれないと先生としては満足しない保育者です。そこに犠牲になっているのは幼児です。

現場では何か言葉にあらわしたり、形に見えたりしないと、又形としてその結果や計画を書かないと、無計画、不勉強、なまけものになってしまうのが日本の上役で、日本の教育は旧態依然、あら、軍国主義の復活かと思われるような事が行われて当然として見のがされています。一番大切な幼児期の教育をどう考えていられるのでしょうか。本当の幼児教育をやろうとする人はこんな事はしたくないでしょうが隣の園がやれば、うちも、との何か大人の気持ちばかり動かして、おかしい結果になっています。これも存続の為に仕方ない事ということはどう教育として通用しないのでしょうか。

この頃は自由保育、自由保育と言葉だけは流行って来ました。文部省も改訂して下さいました。それもいろいろの解釈でこれ又、幼児は迷惑している一つです。自由保育と言う言葉は本来はなかったのだと思います。戦

後、遊びを中心に行っているお茶の水の保育をみてこう名づけて下さった方があり、それに対して一斉が出てきたので、一時期は自由保育と一斉保育と対しての議論もはなばなしかった時もありましたが、おかしい事で、そんな言葉より本当の幼児教育をする事を考えた方がより大切と思います。

現場はそんな議論の渦にまきこまれたりするのでなく、ご立派な先生方のお話を聞いて自分の栄養にしながら生きている人間を教育する所なのでもっと深刻で激しい所なのです。勿論、熱意は皆あって保育しているのですが、その熱意が違った所にかけていてそれに気がつかず又、それを正そうともしない保育者がまだまだ一ぱいらつしゃいます。私もその一人かもしれませんが昔からやって来た事、文部省から出されたからとて依然と変化のない教育はどうなのでしょう。自分のでよい、まちがっていないと思う瞬間、間違っているのだと思えます。

人から言われれば「前からこうしておりますから」

“ここではこういう風にしております” “それはよい事だがうちの園では出来ない” “うちでは自由保育をしております” などこんな言葉を聞く事があります。これは“そうです”という返事を要求はしませんが、にげ口上にしかとれないでしょう。前述のように子どもは刻々変化しているのです。もっと、もっと幼児をながめてほしいものです。熱意も違った所にかけれ、決して幼児が自由にのびのびと成長してゆく場、そしてそれを教育してゆく場も考えられてはいません。のびよう、のびよう自分の力を出して働かそうとしている幼児をちょっとまって、ちょっとまってと止めている教育をしていると同然です。

どうして幼児をのびのびと自分の力の出せる世界、そして同年齢（幼児期）の子どもたちの中で幼児自身の力を充分だせる場を作ってあげられないのでしょうか。不思議です。

どうしても自由にしてあげられないらしく、計画とか、一しよに同じ事を経験させてやりたいとか、これが

たりないから出来るようにさせてやりたい、何度もくりかえすと出来るように○○さんはなったとよろこんでいる先生。かわいそうなのはその出来るようになったお子さんの精神的内情。幼児はやらせれば何でもやってくれるし出来るようになりますが、その時のその幼児の内面発達、内面的動揺はどうなのでしょう。保育者は先生の努力でできるようになったと得々と話しているでしょうが幼児の内面的発達にはいかなるマイナスができたか。それより幼児自身から自分で努力してできた時の内面的発達は如何にプラスか大きい事でしょうか。

唯々、その時の保育者のかかわりのチャンスが大きな位置をしめており、又そのかかわり方は重大な教育となつてその幼児の中に入ります。これが即ち一人一人の教育になつてゆくのではないのでしょうか。

もう一斉に物事を押しすすめていく事は限られた事だけになつてしまいました。おかえりと、お食事の時。

あとは園という生活の場へ生活をしに幼児はやってくるので大いに生活をしてもらいます。それには園として

の環境、保育者という人間をはじめ、物的環境を考えるのは言うまでもありません。

で、生活がはじまれば保育者は、三十人いれば三十人の幼児を把握（頭の中に）し、又保育者の目でよくみ、保育者は頭と神経と心と体とを働かせて幼児と生活を共にしてゆきます。そしてその中で必要に応じて一人一人の教育をきめこまかにしてゆくのです。即ち教育を作つてゆくのです。これは昔からですが、現在は特にこの心の心を働かして、するどい眼力で幼児の内面を見ぬく力を働かさねばなりません。上辺うへべの幼児の行動を誰かさんがここで砂場して誰かさんはブランコして、制作して、などなどでは幼児を見ぬく事もできなければ教育する事もできません。

もっと、もっと、もっとレントゲンのような目で幼児と見、判断してゆかなければならないのが現在ではないでしょうか。

それには保育者が相当、心を動かさなければそれは不可能だし、全身全霊であたらねばできません。幼児の方

はもっと、もっとするどい神経と感覚で私共にあたつてくるのです。

うかうかみたり、かわいい、たのしい、よかった、できるようになったなどの表面だけの見方ではとても、とてもおっつきません。

現代の教育はできないのです。

一堂に集め同じ事でなくてもさせていたり、又遊べ、遊べと言われたからと相手をして遊び幼児に先生遊ぼ、遊ぼと言われるとよろこんでいるのは保育者、いや幼児をわかっていない保育者でしょう。勿論一しよに遊んであげる事も必要ですが、その機会、その時[◎]、その状態があります。それを見分けて一しよにあそんであげなければなりません。何でも遊べばよいと思って遊んで、特に「やりました」など声かければ幼児は先生の言われた事としてついてきます。それでよろこんでいてはだめです。先生と遊ぶと、しらないうちに一斉と同じ事をやっている場合にもなりかねません。「ではどうしたら」は長くなるのでやめます

「幼児が自分たちで自分から、いろいろ考えてあそぶ」。そこにはどんなに自由と成長がある事でしょう。

自由はある規律があり、それをまもってこそ本当の自由があり自由感が味わえられるのです。

幼児たち同志の遊びをみていてごらん下さい。その顔の生き生きさ、そしてたのしそうな満足感があふれています。どんなに友だちとの交流の中で成長し各個人がプラスをつくる事か。保育者はお邪魔虫にならないよう気をつけなければいけませんね。それにつけても、見ぬくという、す、ど、い、目、を持つべきです。又、「おあそびなさい」と言ってただ監督しているのでもないのです。現場はいろいろの事が次々とおこって来るので、それを保育者は次々と処理してゆかねばなりません。その時の処理の仕方、幼児とのかゝわり方が、むしろ現代では一番大切で、前述のようにレントゲンの目で見ぬき保育者の全身の神経でキャッチしなければなりません。

又、保育者の幼児に対する事柄、行動、言語、心、等々。すべてが、現代の教育に於ては一番大きく影響

し、幼児もするどくこれをキャッチしてくれ、幼児の中に入ってゆくのです。外側にあらわれるものでなく目に見えない事ゆえ、大変な事で、まちがってしまう場合も多々出来てしまうのです。一見、指導は外側に見えないので、幼児は自由へのびのびと遊び、保育者は唯、監督しているように思われますが、とんでもない事であります。如何に今の幼児たちにはその中にひそむ能力をいろいろと引き出してあげ、育ててあげなければならぬと考える時で、何をさせる、何かの経験を豊富にとか、何をさせなければもう古くなってしまいました。指導を外側に見えないだけ、保育者自身もかようにもふるまえるでしょうが、幼児が育たなければ何もならないでしょう。

上辺だけしか見られない保育者は一ぱいいいて、上辺をみて保育をしているので古い事になってしまふのです。逆に軍国主義にもどったかと思われるような場面もみられます。

保育者自身の考え方は一八〇度かえないとだめで、こ

れはどうしても理解できない事でしょうが又、くい違つてしまいます。保育者自身、気のつかないおそろしきがあるのでしょうか。

自由という事も、うちの園では自由としておりますが放任になってしまふ場合があります。これは又こまる事でしょう。

これは子どもがしたのだから。子どもの中から出たのだから。子どもの創意だから。と理由はいくらでもつきませんが、やはり、いけない事はいけない、よい事はよい事、けじめはやっぱりけじめです。そこを上手に幼児をみながら考えてやってゆくのが現在の保育技術でしょうね。

保育者は常に反省してゆかなければなりません。これも言わずともがなですが。

事実は、自信たっぷりです、自分の見方は違つていないという考え。又自分の考え方は間違つていないという考え。

自信という申しわけないかもしれませんが、反省も

し迷つてもいられるのでしょうか、自分の意見として絶対まげないのは自信があるからでしょう。人の考えも受入れないのも自信があるからでしょう。私はうらやましいなあと思います。いくらやっても今だに迷ひ自信のない自分を見つめる時うらやましいと思います。

が、やはり、子どもが見えなくなつたら、その保育者は盲目で自分の自信しかのこらず、時代が変わるうが、幼児が変わるうが、これがよいと思つた事はあたりはばかり事なくやってのける強さ、うらやましい事ですがでも、それでは幼児は成長するように見えても上辺の上塗りのようなもので本当の成長はしません。心配です。その点自分を見なおすよきチャンスは今ではないでしょうか。

幼児教育界は種々な意見が氾濫しています。それだけに若い方々は迷ひ、出あつた意見に傾倒してしまふでしょう。がよく自分の幼児たちを見なおしてみして下さい。その時、目は開き、心も開き、神経も開くでしょう。

保育内容の経験はたしかに大切な事ですが、幼児がするどい感受性、するどい神経を持っていれば、保育者もそれに答えなければなりません。勿論保育者の勉強は、私が考えるには最高をきわめるべきで、例えば、音楽なら音楽家位、バレエならバレリーナ位、心理は心理学者、生物なら生物学者位など最高に持っていてはじめて幼児の前に立ち、それを全部出すのではなく、全部するつもりであたり、はじめてにじみ出るものとして使われるのです。で、学問は全部すてて幼児の前に、と言うのはそういう事です。が捨ててもすてられるものではありません。これは理想ですが、……

現実はそのより自分の頭を使う事にすぎないのかもかもしれません。

又次は、日頃のその保育者の生活態度、心の持ち方です。素直にうけいれる美しいやさしい心の持ち主、それから一番大切なのは私はよくいうのですが、誠意のある方。庭を掃除していても掃いているのかなでているのか、びっくりする事があります。庭をはきましようきれ

いにしようとするなら掃き方があるでしょう。やらせられたからやるのでは、そこにはその人の誠意はあまり働きません。こんな保育者の内面の働きがみな幼児はするどい感覚でキャッチしてくれますのでこわいのです。

保育者は特別教育らしい言葉をならべたてなくても、幼児がちゃんと生活してゆくようになります。唯、普通の生活がちゃんと落ちていくできれば、そこに何の経験をもしても「自分から」の内面的な働きがしっかり育ち、発達してすばらしい結果も生みだされるのではないでしょうか。

すべて保育者次第でおそろしい事です。

保育者ならもうおわかりと思いますが、日々の事も自分の気持ち、心の動かし方、持ち方で幼児たちの生活もとたんに変化してしまいます。これ位現場は言うに言われない所に、大切な大切な保育者の技術が要求されているのです。特に前からしつこく申し上げてきたように、現代の幼児はこれでないと言ったと言っても過言ではありません。

私は現場の人間として、あの幼児たちを考え、見る時、もう一年一年違って来ている事は事実で、私の〇〇年の経験は殆んど位、役に立たなく毎日四苦八苦しています。その位違って来ている幼児を育てるのでから、私共も一八〇度考えをかえないとやってゆけないと思います。自分の意見をいつまでも正しいと、幼児と相反していても感じなく、遂行してゆくのは現場の人間としてはできない事でしょう。

まして計画、計画と型のすきな日本人は、将来のよき日本人、国際人を作る事はできないでしょう。

毎日その人に教育は個人として、グループとして、クラスとして作られています。固い固い事と言わずに、もっと幼児の中までみて下さい。そしてその幼児の教育を瞬間瞬間作ってあげて下さい。Aさんに「先生」と呼ばれたら「はい」、Bさんに「先生」——と呼べたら「はい」と。決して見のがさず、聞きのがさず、感じそこねないよう、幼児も自ら進んで物事を判断して行動できる人間をつくるなら、こちらも後ろにも目を

持ち、全身の神経を働かせ、頭はフルに回転して、行動をそれにあわせて保育室の中に、園にいるべきでしょう。

唯々考えすぎて同じ経験をとか、出来るようにとか、表面の事のみにおられない保育者になるようお互に幼児をようくみつめて私共も時代と共に変わってゆく保育者になりたいものです。ぜひ、ぜひ一八〇度の転換を。幼児たちのために。口で言葉で幼児を活動させるのではなく、むしろ前より言葉をと、何度も受け入れ、手をかしてあげる位の気持ちで接して、逆に幼児は前進してゆきます。

幼児教育原理は昔から変わりませんが、それを実践する現場では、時代と共に考え、工夫し感じなければならぬでしょう。

人間としての原点を作る幼児教育には、どうしても保育者の反省と柔軟性と謙遜が要求されると思います。

(十文字幼稚園)